

第25回

中学生訪中親善訪問団報告書

平成31年3月24日(日)～3月29日(金) 6日間

南昌・上海



Takamatsu International Association

公益
法人

高松市国際交流協会



第25回中学生訪中親善訪問団

事前研修



初めての研修、ちょっと緊張気味



う〜ん？中国語は難しいなあ
講師は何先生



折紙の折り方を教えてもらいました
講師は田中先生



歌い方を指導してもらいました
講師は安西先生

南昌市を巡って



団長から親書と記念品を贈呈



南昌人民政府来敬訪問



両市の友好を祝って乾杯



滕王閣



南昌瓷板画芸術博物館
肖像画の本人と一緒に



南昌市人民政府大会堂の前で



八大山人記念館

上海市を巡って



壁アート



路地裏アートの街「田子坊」



明代の庭園「豫園」の龍壁の前で



中国の郵便ポストは
緑色

第一中学校を訪問



廊下には明るく元気な生徒の姿が



歌を披露（安藤さん）



歌を披露（池下さん）



日本の歌「ふるさと」を会場の
みんなと中国語で合唱



ジェスチャーゲーム



〇×クイズ



みんなで踊った「盆栽たいそう」



お昼はバイキング
形式での給食



ホームステイ先のみなさんと一緒に給食



書道を体験



外国語学校を訪問



「龍の舞」を披露してくれた生徒と



記念品を団長から
校長先生へ



「お手玉」に挑戦



「福笑い」意外と上手



「かるた」どんどん取れてる



日本語を学んでいる生徒と記念撮影



名残惜しいけどお別れ
手を振り続ける団員

目 次

I 団 員 名 簿	1
II 日 程	2
III 訪問団の活動状況	3
IV 感 想 文	16

第25回中学生訪中親善訪問団 団員名簿

団 長	宮 脇 充 広	高松市教育委員会 学校教育課 課長補佐	
同行職員	笠 井 美 幸	公益財団法人高松市国際交流協会 職員	
団 員	安 藤 愛 真	高松市立協和中学校	1年
〃	池 下 万里名	香川誠陵中学校	1年
〃	酒 井 愛 佳	高松市立一宮中学校	2年
〃	田 中 すすは	高松市立紫雲中学校	2年
〃	谷 川 愛 美	高松市立協和中学校	1年
〃	藤 本 ひなた	高松市立屋島中学校	2年
〃	堀 内 瞭	香川大学教育学部附属高松中学校	2年

※学年等は派遣当時のもの

第 25 回中学生訪中親善訪問団 日程

月 日 (曜日)	主 な 行 事	宿 泊
1 3月24日(日)	10:45 高松空港集合 (出発式) 13:00 高松空港発 (春秋航空 9C8890) 13:55 (中国時間) 上海浦東国際空港着 午後 上海タワー、南京東路散策 18:00 夕食 (北京料理) 19:00 外灘夜景見学	(上 海 泊) 上海徐匯瑞峰酒店
2 3月25日(月)	午前 田子坊見学 12:00 昼食 (上海料理) 13:41 上海虹橋駅から高速鉄道にて南昌へ (G1329) 17:26 南昌西駅着 18:00 ホストファミリー対面式	(南 昌 泊) 生徒：ホームステイ 引率：錦江国際錦峰大酒店
3 3月26日(火)	8:30 ホテル集合 9:00 滕王閣見学 10:15 江西省博物館見学 11:30 南昌市人民政府表敬 12:00 歓迎昼食会 (南昌市人民政府主催) 14:30 南昌盗版画芸術博物館見学 16:00 南昌市外国語学校日本語科 交流会 17:30 ホストファミリー出迎え 19:00 ホームステイ先訪問 (団長、引率)	(南 昌 泊) 生徒：ホームステイ 引率：錦江国際錦峰大酒店
4 3月27日(水)	8:30 ホテル集合 8:45 南昌市第一中学校 交流会・書道体験 12:00 昼食 (第一中学校給食) 14:00 八大山人梅湖風景区見学 17:45 歓迎夕食会 (南昌市外事僑務弁公室主催) 19:30 ホストファミリー出迎え	(南 昌 泊) 生徒：ホームステイ 引率：錦江国際錦峰大酒店
5 3月28日(木)	8:45 ホテル集合 ホストファミリーとお別れ 10:30 南昌昌北空港発 (FM9246) 11:55 上海虹橋国際空港着 午後 上海自然博物館・豫園・豫園商城 見学 中国茶体験 18:00 夕食 (広東料理)	(上 海 泊) 上海大衆空港賓館
6 3月29日(金)	6:30 ホテル出発 9:05 上海浦東国際空港発 (春秋航空 9C8889) 12:00 (日本時間) 高松空港着 (解散式)	

訪問団の活動状況

3月24日（日曜日）訪問団1日目

●高松～上海

いよいよ、待ちに待った出発の日がやってきた。団員9名は、これから始まる中国での生活に期待や不安が入り混じっている中、高松空港に集合。まずは見送りに来てくださった団員の家族、高松市国際交流協会の中谷事務局長の前で出発式を行い、訪問団を代表して田中さんが、出発にむけて決意と抱負を述べた。定刻通り、飛行機は上海に向けて出発した。



期待と緊張の中、いよいよ出発！

上海に到着し機体を降りて乗り合いのバスでターミナルへ。まず、昨年4月から導入された指紋認証登録を体験。パスポートを機械にかざすと日本語のガイダンスに変わり、ディスプレイの指示に従って指紋をガラス面にあてるだけ。対象者は満14歳からだった。その後、検疫所を通ると、引率者が発熱のため検疫検査に引っかかり、検疫室で検査を受けるが、なんとか入国審査へ進む許可が下りた。長蛇の列の入国審査でまた指紋照合を受け全員通過できたが、思ったより時間がかかってしまった。預けた荷物を受け取り、長い間待たせてしまった現地ガイドの朱さんと合流した。



上海に到着！ガイドの朱さんと

専用バスに乗り、上海の街並みを眺めながら移動。道路の分離帯には花壇が整備されており、色とりどりの花が私たちの目を楽しませてくれた。走っている車は高級車ばかりで、日本とは反対の右側車線を走っており、歩道にはアプリで使えるレンタサイクルが何台も並んでいた。



レンタサイクルがずらり



世界第2位の高さを誇る
「上海タワー」

世界第2位の高さを誇る上海タワーに到着。高さ632m、ねじれながら高くなっていくデザインが特徴的。世界最速のエレベーター（三菱電機製）に乗り、118階の展望台までわずか55秒で到達。エレベーターを降りると、ぐるりと360°上海の街並みを遠くまで見渡すことができた。

夕食の時間となり、北京料理を食べに行った。円卓の上に並べられた大皿の料理を、各自で取り分けていただいた。中国の箸は長くて先が太く、同じ箸の文化なのに日本と違っていた。



本場の北京料理を食べました!!



ライトアップされた高層ビルの夜景をバックに

夕食後は、上海一有名な夜景スポット外灘へ。外灘沿いには、ライトアップされた旧英国租界の重厚な歴史的建造物が立ち並んでいた。川を挟んで対岸には、近代的な高層ビルが林立し、色とりどりのイルミネーションで光輝いていた。見とれてしまうほど綺麗だった。明日の活動に期待を膨らませ就寝。

3月25日（月曜日）訪問団2日目

●上海～南昌



おしゃれな路地裏スポット「田子坊」

ホテルで朝食をすませ、ガイドの朱さんと合流し、バスで田子坊へ。元々は著名な画家がアトリエを開いたのが始まりで、アーティストが住み着いた街。現在は、古い建物をリノベーションして、迷路のような路地には雑貨店などが立ち並んでいた。ここで、迷いながら気ままに路地裏を散策し、中国紙幣を使って初めての買い物をした。

次はバスに乗って、高級ブランドが立ち並ぶ南京路歩行街に行った。平日の昼間にも関わらず人が多く、歩行街を往復する路面電車が走っていて、日本でお馴染みの吉野家やハーゲンダッツのお店があった。また、広告の写真や映像もとても大きく、見るものすべてに圧倒された。昼食は、上海料理でとても量が多かった。



南京路歩行街で



高速鉄道の改札口で

昼食後、バスで上海虹橋駅へ移動し、高速鉄道乗り場へ。空港並みに広く、セキュリティチェックを受け、改札口が開くのを待った。ここでお世話になったガイドの朱さんに別れを告げ、高速鉄道に乗った。座席は1等席で、日本の新幹線のグリーン車みたいな感じだった。お菓子の詰め合わせが配られ、飲み物は数種類の中から選べた。高速鉄道で3時間半かけて南昌に向かい、午後5時半頃、南昌西駅に到着。

南昌外事僑務弁公室の曾副主任と顔処長と黄さんの心温かい出迎えを受け、緊張していた訪問団も一安心。駅構内で横断幕を持って記念撮影後、専用バスで移動。車内では、中国語の会話の練習をしたり、南昌の景色を楽しみながらも、初めてのホームステイに少し緊張気味。そして、ホストファミリー対面式会場に到着。



南昌西駅で熱烈歓迎の横断幕をもって記念撮影



新たな出会い ホストファミリーとの対面

ホストファミリーの方々が、私たちの到着を楽しみに待っていてくれた。曾副主任と宮脇団長が挨拶をし、団員一人一人名前を呼ばれ、初めてホストファミリーと対面した。恥ずかしそうにしながらも笑顔で握手。それぞれホームステイ先へ向かい、日本語の通じない生活が始まった。



今年の干支のオブジェの前で

ホストファミリーと朝食後、ホテルに集合した。団員たちは、朝食の話で盛り上がっていた。まず最初に見学したのは歴史的名楼の滕王閣。「猪年大吉」と書かれた豚の置物に迎えられた。建物は朱塗で、中国を感じることができた。唐代の653年に李元嬰の道楽によって建てられたもの。専属ガイドの案内で南昌市外事僑務弁公室の顔さんが通訳をし、楼閣内を見学した。6階までエレベーターで上

がり、壁画、漆絵などの展示物を見て回った。赤を基調とした天井や壁の装飾がきれいだった。また、昔の様子をVTRで見ることができ、すごく現代的だと思った。回廊を出ると、真下には贛江という川が流れており、対岸には近代的な南昌市を眺めることができた。

次の見学先の江西省博物館へ。ここでも専属ガイドの案内で顔さんが通訳をしてくれた。館内には、27日だけ皇帝だった前漢の第9代皇帝・劉賀の墓から発見された2000年前の貴重な文化財を鑑賞。目のくらむような金器の数々、積み上げられた貨幣の山、青銅器、玉器、漆器、竹簡などが展示されていた。



メダルのような金製品

次は、南昌市人民政府表敬訪問の会場に入り、団員は緊張した面持ちで席に座って待っていた。そこに南昌市人民政府代表大会常務委員会 魏国華副主任や関係者の皆様が現れ、訪問団を温かく歓迎してくれた。魏副主任から歓迎の挨拶があり、南昌市の歴史やこれまで両市の相互交流を通じて、揺るぎない基礎を築いてきたことに触れ、友好交流の必要性について述べた。



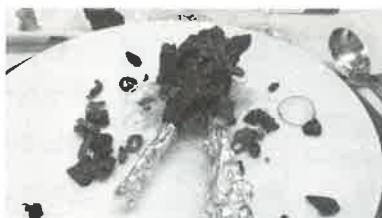
南昌市人民政府表敬訪問

宮脇団長からは、これまで交流事業を続けることができたのは、南昌市関係者の皆様の御協力のおかげであると感謝の言葉を述べた。続いて、高松市長から南昌市長への親書と後藤塗の花筒を宮脇団長から魏副主任に手渡した。その後、南昌市から訪問団に記念品が配られ、団員には、お面のしおりとキーホルダーをプレゼントしてくれた。



南昌市人民政府主催の歓迎昼食会

南昌市人民政府主催の歓迎会では、五つ星ホテルのレストランで食事をした。一つ一つの料理がきれいに盛り付けられていて、どれも美味しかった。食べ方が分からなかったり、辛いものがあったりしたが、料理が運ばれてくるたびにワクワクした。



豪華な料理の数々

食事をしながらの歓談では、魏副主任が表敬訪問時の団員の行儀のよさをとても感心して褒めてくださった。食の話題では、南昌の料理の味付けは辛いのが、かえって相手に強く印象づけるので覚えてもらいやすいそうだ。教育現場の話など興味深いお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

午後からは、南昌瓷版画芸術博物館へ。今までに見たことのない巨大な青銅の門。中央の飾りが金色の色に見えて、まるで青鬼が口を開けているように感じた。中に入ると、何百年前にタイムスリップしたような不思議な気持ちになった。著名人を描いた肖像画が並んでおり、どの作品も細やかな筆使いによって、写真のようにとってもリアルに見えた。



南昌瓷版画芸術博物館の前で



陶器に絵を描いている様子

その後、実際に作品を制作している隣のアトリエにお邪魔した。職人さんが陶器に細い筆を使って丁寧に描いていた。団員は、出来上がっていく作品を間近で見ても、興味津々の様子だった。

次は、南昌市外事僑務弁公室の万さんと黄さんの案内で、南昌市外国語学校へ。学校に到着すると、彭旭斌校長先生と余静副校長先生が出迎えてくれた。見上げれば、教室の窓から顔を覗かせて手を振ってくれる生徒がいたり、校庭でいた子は駆け寄ってきてくれて、いつの間にか大勢の生徒が団員の周りを取り囲んで笑顔で温かく迎えてくれた。



団員を取り囲む外国語学校の生徒たち



歓迎の「龍の舞」

体育館に案内され、中学生による息の合ったテクニック満載の「龍の舞」を披露してくれた。見事な舞に大きな拍手を送った。

その後、交流会場へ移動。まず目に入ったのは、私たちが待ち構えていた制服姿のかわいらしい生徒たち。歓迎会が開かれ、校長先生と団長の挨拶の後、記念品の交換。この学校は南昌市の中でも有名な学校で、英語以外の言語を勉強するチャンスがある。全校生徒数は約1,600人で、そのうち日本語を勉強している生徒は約200人。交流会では、日本語を勉強して半年になる中学生25人と、日本のお正月遊び「お手玉」「福笑い」「かるた」に挑戦してもらい、一緒に楽しい時間を過ごした。



「お手玉」



「福笑い」



「かるた」

南昌市側からは、女の子3人が日本語での自己紹介、与謝蕪村の俳句と俵万智の短歌を照れながらも堂々と発表してくれた。上手な日本語の発表に思わず拍手がわいた。最後に生徒から私たちに、ポストカードを3枚ずつプレゼントしてくれた。



外国語学校の生徒による俳句と短歌の発表



別れを惜しむ団員

楽しい交流時間もあっという間に過ぎ、学校を離れる時がきてしまった。先生や生徒と別れを惜しみ、バスが出発した後も、ずっと手を振り続けた。ホテルに戻ると、ホストファミリーが迎えに来ていて、各家庭に帰った。

団長と引率は、顔処長、黄さんと学校の先生方の案内で、堀内君のホームステイ先の謝昊岩君宅へ訪問。マンションに住んでおり、お母さんが笑顔で温かく迎えてくれた。昊岩君に高松に来た時の印象を聞くと、澄んだ空が見えたこととお寿司が美味しかったことを話してくれた。お母さんはとても気さくに話しかけてくれて、家庭料理を見せてくれたり、南国フルーツのマンゴスチンをみんなでいただいた。



堀内くんのホームステイ先



藤本さんのホームステイ先

続いて、藤本さんのホームステイ先の劉楽さん宅へ。こちらにもマンションに住んでいて、お父さんとお母さんに出迎えられ、友達が遊びに来てくれていた。リビングの大きな窓からは、眺望を楽しむことができた。会話は、お母さんが翻訳アプリを使って意思疎通を図っていた。

突然の訪問にもかかわらず快く迎えてくださり、どちらの家庭も団員に精一杯もてなそうとしてくれていることが伝わり、その優しさが嬉しかった。



授業の様子

ホストファミリーと朝食後、ホテルに集合し、昨年の夏に高松を訪れた中学生のいる第一中学校へ向かった。平成17年に第13回訪中親善使節団が訪れており、今回2回目の訪問。全校生徒数は約1,200人で、朝7時40分から授業が始まり、授業が終わるのは午後5時で、日本のように春休みとされているものはないようだ。到着すると、熊崎校長先生を始め多くの先生や生徒に出迎えられ、

昨年高松でお会いした熊春和書記と再会を果たすことができた。校内を案内してもらい、授業の様子も見学できた。教室には45人の生徒が熱心に授業を受けていた。

そして、中学生交流会場へ向かった。会場に入ると、この日のために集まってくれた約100人の生徒たちが私たちを温かく迎えてくれた。ステージ上のスクリーンには、日本語で歓迎の文字が映し出されていた。校長先生と団長の挨拶の後、記念品を交換。南昌の中学生男女2名による堂々たる司会で交流会が始まり、全員で校歌斉唱。通訳の進行で、南昌中学生と訪問団が出し物を



第一中学校での歓迎会

交互に披露した。南昌側からは、「扇子ダンス」、「ギター合唱」、「太極拳の演舞」「中国伝統舞踊」「ヒップホップダンス」の多彩な出し物を披露してくださり、どれも素晴らしいものだった。



南昌市側の出し物の披露

団員からは、安藤さん、池下さんが自分で選んだ歌（中国語）をソロで歌い、日本の歌「ふるさと」では、団員が日本語で歌った後、会場のみなどと中国語で合唱した。「ジェスチャーゲーム」では、日常的な行動やスポーツをお題として、南昌の中学生に当ててもらい、「〇×クイズ」では、みんなで考えた香川県についての問題を出した。そして、最後に中国語バージョンの「盆栽たいそう」を会場のみなどで一緒に踊り、大いに盛り上がった。頑張って披露したおかげで、たくさんの温かい拍手をいただき、練習以上のものが披露できた。



団員による出し物の披露

交流会の後の書道体験では、先生から書道の説明を受けた後、王羲之が書いた有名な書作品「蘭亭序」の中から選んで、「永」と「和」の文字を書くことになった。団員は南昌の生徒と一緒に楽しそうに何度も書いて、一生懸命取り組んでいた。中国の墨は日本の墨に比べてさらさらしていた。



書道を体験

その後、昼食の時間となり、学校の食堂へ移動し、特別に用意してくれたバイキング形式の学校給食をホームステイ先の子と一緒に食べた。種類は、パン、炒めビーフン、野菜、果物、くらげのスープなどで、味付けは辛かったり甘かったり。子供たち同士の大切な交流の時間となった。会話を弾ませて楽しそうに食べていた。



ホームステイ先のみなさんと一緒に昼食



八大山人について説明を受ける団員

午後からは、歴史的景勝地として指定されている八大山人梅湖風景区に行った。広い敷地のため園内専用の車で移動。ここでも、専属ガイドの案内で顔さんが通訳をし、八大山人記念館で、八大山人の水墨画の作品を鑑賞した。八大山人は明の王族出身で、明滅亡後、僧侶となり画家となった。花や魚や鳥などを題材とし、複雑な感情と心理が表現された、様々に解釈できる作品は、とても興味深かった。



日本人になじみ深い松盆栽と

きれいに整備された庭園を鑑賞しながら散策。さまざまな松盆栽が並んでいて親近感がわいた。

南昌市外事僑務弁公室主催の歓迎夕食会のため、バスでホテルまで移動した。北京ダックなどの豪華な食事でもてなされた。会話が弾み、笑いの絶えない食事会となった。今日は朝から夜遅くまで内容盛りだくさんの1日だった。夕食後、ホストファミリーのお迎えを受け、ホストファミリーとの残りわずかな時間を過ごした。



南昌市外事僑務弁公室主催の歓迎夕食会

3月28日（木曜日）訪問団5日目

●南昌～上海



ホストファミリーとの最後の別れ

ホストファミリーとの別れの朝を迎えた。残念ながら天気は雨。それぞれのホストファミリーに送ってもらった団員は、笑顔の中にもどこか寂しげな表情をしているようだった。駆けつけてくれた第一中学校の先生、見送りに来てくれたホストファミリーと最後の別れをしてバスに乗り込んだ。バスが動き続けても互いに手を振り続け空港へ向かった。南昌での滞在中、

常に同行してくれた南昌市外事僑務弁公室の顔処長と黄さんに別れを告げ、飛行機で上海へ。上海虹橋国際空港に到着し、ガイドの銭さんと合流し、バスで上海自然博物館へ向かった。

地下2階から地上2階までの4階建て。館内はダイナミックな展示スタイルになっていて、まず目に入ったのは巨大な恐竜の化石。ここでは、46億年前に地球が誕生してからの各種生物の進化の様子を見学することができた。動物のはく製、岩石、猿人や原人など人類と深い関わりのあるものも展示。ただ



上海自然博物館を見学

展示しているだけではなく、原寸大の恐竜が動いたり鳴き声を出したりと、迫力満点で見ごたえたっぷりだった。



豫園のライトアップ

次は、豫園に向かった。明の時代、四川省の役人が父親のために18年の歳月を費やして造った個人の庭園。銭さんの案内で、園内を鑑賞しながら散策した。一番目に行くのが、飛び跳ねるように沿った屋根と、屋根の上のある様々な彫刻類。壁をさまざまな形にくり抜いた門があちこちにあって面白かった。中国を感じさせる庭園だった。

その後、中国茶専門店に向かい、貴重なお茶を試飲することができた。それぞれが気に入ったお茶を買い、美味しいお茶の入れ方を教えてもらった。それから、豫園商城で買い物した後、夕食会場に向かった。

中国での最後の夜の食事は広東料理だった。テーブルからはみ出すほどのたくさんの料理には驚いた。楽しい1日を過ごし、ホテルで名残を惜しみながら最終日を終えた。



中国で最後の夕食

3月29日（金曜日）訪問団6日目

●上海～高松

早いもので帰国の日の朝を迎えた。6時20分にロビーに集合し、みんなで朝食をとり、ホテルを出発。足早に荷物を持って空港へ。ガイドの銭さんのおかげで、長い列に並ぶことなくスムーズに搭乗手続きを済ませた。2日間お世話になったガイドの銭さんとお別れをし、出国手続きなどをした後、搭乗ゲートへ。時間に余裕があったので、団員は売店でお土産を買った。



みんなで仲良く朝食



団員の固く結ばれた絆



さようなら中国、またいつか

定刻より早く離陸し、高松に12時前に無事到着し、久しぶりの家族との再会となった。事故やトラブルがなく全員無事に帰ってきたことに安堵した。



解散式の様子 みんな無事に帰ってきました！

解散式では、団員を代表して堀内君が、この6日間の貴重な体験ができたことへの感謝の気持ちを述べた。解散後、それぞれ忘れ難い思い出とたくさんのお土産を持って、それぞれの家路についた。

この事業を通して、普段と異なる異文化を体験し、人の温かさなどに触れ、様々な刺激を受けた団員は一回りも大きく成長し、一生忘れることのできない6日間となった。この事業に携わったすべての皆様に感謝。

感 想 文

文 想 錄



訪中親善訪問団、南昌市への旅

第25回中学生訪中親善訪問団団長 高松市教育委員会学校教育課

課長補佐 宮脇 充広

上海虹橋駅発の高速鉄道に乗り、広大な田園地帯を抜け、南昌市へ向かった。私たち第25回高松市中学生訪中親善訪問団の一行9名（中学生7名）は、平成31年3月25日から3月28日の日程で友好都市である南昌市を訪問したのだ。

点在する家々や鮮やかな菜の花畑、田の脇を抜け、変化の少ない風景に慣れた頃、霞の中に突然にビル群が見え、南昌駅に着いた。約4時間の列車の旅であった。降り立つと、何本ものフォームが見え、南昌が交通の要所になっていることをうかがわせる。

改札を抜けると、南昌市外事僑務弁公室の曾副主任や顔処長ほかスタッフの皆さんたちから、熱烈な歓迎を受けた。日本語で声をかけてくださり、南昌へやっと着いたという安堵感があった。

そのままマイクロバスに乗り込み、ホテルへ直行した。ホストファミリーとの対面式である。彼らの笑顔に迎えられ、温かみのある式となった。曾副主任の挨拶のなかで「草の根の交流が大切です。それをしっかりやりましょう。」という話があり、改めて私たちが訪れた意味を確認した。



ホストファミリー対面式

南昌では中学生はホームステイと学校訪問、博物館等文化施設の見学を行った。

ホームステイでは、それぞれの家庭で、中国の生活を体験した。夜、ホームステイ先へ家庭訪問をした際には、食事は、辛味と油を抑え、私たちの口に合うように配慮くださったり、一部屋開けて、寝室を用意してくださったりしたことを聞き、受け入れに配慮をいただいたことを感じた。お陰様で、団員たちは安心して過ごすことができ、よき思い出をつくることのできたのである。ホストファミリーの皆様のご厚情には、本当に感謝申し上げます。

南昌2日目、南昌市外国語学校に訪問した際には、黄色い声援で迎えられ、アイドル並みの歓迎であった。校舎入口付近の電光掲示板にも日本語と中国語で歓迎の言葉が繰り返し表示される。日本語学科の中学1年生とは、かるたなど日本の遊びを通して交流をした。中学生から外国語を専門とした教育課程が有ることにも驚くが、実際に生徒が日本語で自己紹介をしたり、短歌や俳句を暗唱したりする様子は、意欲的な学びがあることを感じさせる。かるたは最後の札を取るまで盛り上がり、同じ年頃の中学生らしい横顔も見られた。



第一中学校交流会「ふるさと」合唱

南昌3日目は、ホームステイ先の中学生が在籍する南昌市第一中学校と交流した。私たちからは、日本の唱歌「ふるさと」を日本語と中国語で歌ったり、高松市の「盆栽たいそう」を中国語バージョンで踊ったりした。特に「ふるさと」の合唱の歌声は、観客を魅了し、皆が一つになったことが感じられた。また、高松市や日本に関するクイズで大いに盛り上がった。団員の生徒は、個々の力を発揮し、自分の役割を果たした。チームワークも生まれ、余裕が出てきていた。

出発に当たって、団員たちは「異文化を体験し、自分の新しい一面を見つけない」という思いを話してい

た。この訪中の旅の経験は、これからの彼らの日々の選択に、きっと影響を及ぼすことであろうし、「新しい一面」の自覚を生むことであろう。「かわいい子には旅をさせろ」と言うが、日常を離れ、異なる環境に身を置いた時に、普段は気付かないものに、接することができるのである。そんな心の動きが、貴重な体験となり、南昌の辛い料理の味とともに強く印象付けられたことであろう。

私にとっては、外事僑務弁公室の顔さんとの会話も貴重な交流であった。話題は中国の発展や南昌の料理のこと、交通マナーや子育てなど、価値観や教育（受験や個性化）、など多岐に渡り、相違点の一つ一つに考えさせられた。改めて、振り返るよききっかけとなった。顔さんとはもっと話したい気持ちでいっぱいであった。

南昌を別れる朝は春の雨

今回の訪中に際し、団のお世話をいただいた高松市国際交流協会の中谷常務理事、事務局の笠井様、南昌市外事僑務弁公室の曾副主任や顔処長はじめ、関わっていただいた方々に、心よりお礼を申し上げます。



中学生訪中親善訪問団を引率して

公益財団法人高松市国際交流協会

事務局員 笠井 美幸

今年も中学生訪中親善訪問団の引率として同行させていただき、中国でお世話になった関係者のみなさまのお陰で、有意義で貴重な体験をすることができました。

いろんな思いをもって集まった7名の生徒と、この事業が実りあるものになるように、講師の先生にもアドバイスをもらいながら、事前研修を4回行いました。最初はみんな様子を伺いつつ、研修を繰り返すうちに、協力し合いながらお互いのことを知り、だんだんと仲を深めていきました。

南昌市での交流プログラムでは、南昌市外事僑務弁公室の顔部長と黄さんが常に一緒に同行してくださり、行く先々で歓迎を受け親切にしてもらい、団員は感激の連続でした。

中でも思い出深いのは、昨年高松を訪れた中学生のいる第一中学校、日本語を勉強している外国語学校の生徒との交流でした。第一中学校では、南昌市の中学生が、歌、ダンス、太極拳、ギター合唱などを準備してくれていました。団員からは、歌、ゲーム、クイズを通して交流を深め、最後の盆栽たいそうでは、南昌の中学生も一緒になって見よう見まねで踊ってくれました。外国語学校では、日本のお正月遊びをして、日本の伝統文化に触れてもらいました。両市の中学生が、言葉の壁を越えて交流し、心が通じあう喜びを感じている姿に、私はとても嬉しい気持ちになりました。

ホームステイでは、団員のうち2名は、今年の夏、南昌市から高松市を訪れた中学生をホストファミリーとして受け入れており、今回は逆の立場で、受け入れた子の家庭にホームステイすることができ、久しぶりの再会となりました。

初めてホームステイをする団員にとっては、一人で言葉も通じない生活習慣も違う環境での生活は大変だったと思いますが、ホストファミリーの優しさに触れ、忘れられない時間を過ごし、特別な絆を持つことができました。

団員にとって、ホストファミリーとの交流や同世代の中学生とともに友情を育んだ数々の体験は、自分自身を成長させることができた貴重な経験だったと思います。この経験を生かして、将来様々な形で役立ててくれることを願っています。

これまで両市の中学生がお互い行き来して、異なる文化を体験し友情を深め交流を続けてきたように、今後もこの事業が末永く続くことを願っています。そして、南昌市からの訪問団が高松を訪れた際には、南昌市で受けた恩恵を忘れずに、温かく迎え入れて両市の友好を深めたいと思います。

私は引率として昨年に引き続き2回目の訪問ということもあり、以前からお世話になっている方や今回初めてお会いする方など、多くの人と交流する機会を持つことができました。そして、遠い存在だった南昌市を、様々な経験を通して、今では身近に感じられるようになりました。今後は、この事業で出会った人とのつながりや経験を大切に、両市の友好の一助となるよう自分にできることをしていきたいと思います。

今回訪問を受け入れていただきました南昌市外事僑務弁公室の皆様、訪問校の先生方、ホストファミリーの皆様、団長や7名の生徒たち、事業に御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



書道の先生が団長と引率に書いてくださった書画



南昌で最後の食事 みんなで乾杯！！



我在中国的回憶

高松市立協和中学校 1年 安藤 愛真

見るものすべてに圧倒された日々。何度でも行きたいと思えた旅。

私は今回、中学生訪中親善訪問団として高松市の友好都市、南昌市に国際交流に行きました。初め中国と聞いたとき応募しようかとも悩みました。それは、私にとって中国のイメージが良くなかったからです。私は中国の悪いところだけを見たり聞いたりして、いいところや素晴らしいところをあまり知りません。しかし実際に行ってみると、中国は私が思っているよりとてもいいところでした。



高松空港出発前



滕王閣

ここでは、私が中国で印象に残っていることを書きたいと思います。まずは1日目、初めての海外にとっても不安で、飛行機の中の時間がとても長く感じました。上海に着き、見たことがない大きさのビルに目を輝かせました。2日目の午前中は上海市内を観光して、お土産を買ったり街を散策したりしました。午後は高速鉄道で南昌市に向かいました。ホテルでホームステイ先の蔡溢培さんご家族と顔を合わせて、南昌市を案内してもらいました。会話は英語か翻訳機で成り立ちました。3日目は南昌市人民政府表敬訪問を行い、その後、外国語学校に行きました。外国語学校では、温かい歓迎がとても嬉しかったです。夜には噴水ショー



第一中学校での書道体験

に連れて行ってもらいました。4日目は朝から蔡溢培さんが通っている第一中学校で交流をしました。出し物の中で「盆栽たいそう」が一番盛り上がっていて練習した甲斐があったなど嬉しかったです。昼食は学校の食堂で食べました。自分の口合う料理があって食べやすかったです。この日はホストファミリーと過ごす最後の夜で、中国での有名なスポーツブランドのお店に連れて行ってもらいました。学校であった話や「盆栽たいそう」の話で盛り上がりました。ホストファミリーと過ごし

た3日間はとても幸せで嬉しかったです。5日目は南昌から上海へ飛行機で移動しました。午後は上海自然博物館に行ったり、豫園商城に行ったりしました。最終日は、朝早く起きて7時に空港に行きました。そのあと、ここにまだ居たいという名残惜しい気持ちで中国を発ちました。

中国から帰ってきた今では、中国はとても美しいところで、行けて本当に良かったと思います。私たちを支えてくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今年の夏は私たちが温かく南昌市の中学生を迎えたいと思います。謝謝！



私を成長させてくれたもの

香川誠陵中学校 1年 池下 万里名

今回の訪中でたくさんの貴重な体験ができました。中国に行くのはあまり不安ではありませんでしたが、全ての会話を英語または中国語でするというのは、あまり自信がありませんでした。出発前に中国人である私の母に、中国の礼儀作法、簡単なコミュニケーションを教えてもらい、お土産には何を持っていったらいいのかわかる等も教えてもらいました。そのかいあって、ホストファミリーにお土産を渡す時に「はいどうぞ」と中国語で言ったら、とても喜んでくれました。前日のホテルでシャンプーや洗顔等を忘れてしまった私に、優しく「洗面所にあるもの使っていていいよ」と言ってもらえました。すごく嬉しかったです。ホストシスターの周奕辰さんとも、ほとんどの会話を英語でしました。事前に中国の英語教育が日本よりも進んでいると聞いていたのでとても心配でしたが、その心配も必要なく、楽しく話すことができました。ホームステイ2日目の夜、ホストファミリーに外食に連れて行ってもらいました。南昌の料理はとても辛いと聞いていましたが、私が「辛いものは苦手」と伝えると、ホストマザーがあまり辛いものを頼んでくれました。自分の中国語が通じたこと、そしてホストマザーの優しさで、ホームステイはとても充実したものになりました。

第一中学校では歌を歌いました。出発の日まで念入りに練習したのですが、緊張であまり歌えませんでした。でも、終わったあとにホストシスターの周奕辰さんが「難しいのによく歌えたね！上手かったよ！」と言ってくれて、歌ってよかったなと思えました。

この6日間で私はとても成長できたと思います。普段何気なく使っている英語、中国語でも他国の人との交流の手段としてとても必要なものと言うことが再認識できたと思います。このような体験をただ「私の経験」で終わらせるのではなく、高松の人だけでなく日本人にも知ってもらいたいと思いました。なので、SNSなどを使って拡散しようと思います。これをすることで、日本人たちが中国の良さを知ることが私の願いです。最後に、中国で関わった方々、高松市国際交流協会の方々にはとても感謝しています。



第一中学校交流会 歌を披露



ホストシスターの周奕辰さん(中)とその友達の呉泚静さん(左)



博物館のガイドさんと



中国を訪れて

高松市立一宮中学校 2年 酒井 愛佳

「でかい！」それが私が中国へ行った時の第一印象でした。建物がでかい、声のでかい、規模がでかい、など何もかもが規格外のでかきでした。小さな香川県から行った私にとってとても衝撃的でした。

私は中国へ行き、たくさんのことを学びましたが、特に心に残っていることは2つあります。

1つ目は、3日目に行った南昌市外国語学校日本語科の学生との交流会です。私がそこへ行ったとき、2つのことを感じました。まず一番目を感じたことは、おもてなしの精神がいっぱいだなということです。「こんにちは」「はじめまして」と言って手を振ってくれる子が積極的に話しかけてくれて、とても心が温まりました。



お互い手を振って挨拶を交わす様子

二番目を感じたことは、驚きです。私より小さな子がほとんどなのに、みんなすごく上手に、

日本語を話していてとても驚きました。驚きと同時にちょっとした焦りもありました。彼女たちは私より小さいのに母国語である中国語と英語、日本語の三カ国語を勉強しています。しかし、私は英語もほとんど話せないし、中国語は挨拶ぐらいしかわからないのです。私もせめて二カ国語は話せるように勉強しなくてはいけないと痛感しました。

2つ目は、ホストファミリーと過ごした3日間です。最初は、緊張してうまく話しかけることができなかつたのですが、ホストファミリーの皆さんが、優しく笑顔で接してくれたことで、だんだん話せるようになりました。最初は、覚えた中国語をなかなか話すことができなかつたけれど、私のカタコトな中国語を理解しようと努力してくれるホストファミリーの優しさで、だんだん中国語を話せるようになりました。



優しいホストマザーと

私は、この6日間を通して海外の同年代の子どもたちとかかわることで刺激を受け、自分自身の課題をたくさん見つけることができました。また、ホームステイを体験したことで、中国の人々の文化や生活を自分の肌で感じる事ができ、日本との違いを実感することができました。この経験を生かして、これからも海外の人たちと関わっていけるよう、積極的にさまざまなことに取り組んでいきたいです。



南昌の噴水ショーの前で吳沚静さんと



楽しかった中国そして勉強になった5泊6日！

高松市立紫雲中学校 2年 田中 すずは

大好きな祖父と祖母が行った南昌市に行ってみたくらいと思い、応募した中学生訪中親善訪問団。行ってみたくらいとは言ったものの、不安な気持ちがどんどんと大きくなりました。

でも、研修を繰り返すうちに他校の子とも話せるようになり、私の心の中の不安も小さくなりました。いよいよ出発の日。新しいスーツケースがうれしくて、今までの不安な気持ちはなくなっていました。

上海に着き、一番に感じたのが、高い建物の多さでした。また、高松では見たことのない個性的なデザインの建物もあったり、私は首を右に左に、見る物すべてが楽しくて仕方がなかったです。



「上海タワー」の118階から見た景色



おいしかった上海料理

そして、何より私が楽しみにしていた事が現地での食事です。エビチリに麻婆豆腐、絶品だったチャーハン。南昌市第一中学校の食堂で食べた唐辛子焼きそばは、今でも忘れられない味です。

ホストシスターの馬雅秋さんが私を友達の家に来て行ってくれて、日本のアニメ「クレヨンしんちゃん」やアメリカのアニメ「スポンジボブ」について話したり写真を撮ったりして、楽しい時間を過ごしました。

ホストファミリーはとっても優しく、もっと中国語が話せたらよかったです。不便さを感じることなく過ごせたこと、感謝しています。

今回、中学生訪中親善訪問団として、初めての体験ばかりで不安もありましたが、団員の皆さん、ホストファミリーやいろいろな方々に助けられ、かけがえのない経験ができたことに改めて感謝しています。行く先々で出会った人たち誰もが優しくしたこと、私は忘れません。

そして次は、私がお迎えをすることが楽しみです。それまでに、少しでも中国語が話せるようにしておきたいです。

帰国して、数日後、祖父が久々に油條（ユジョウ）を作ってくれました。油條とは揚げパンみたいなものです。現地では食べられませんでした。祖父の油條はやっぱりおいしいです。

次は、祖父と一緒に本場の油條を食べてみたいです。



ホストシスターの馬雅秋さん(中)とその友達(右)



中国での6日間の思い出

高松市立協和中学校 1年 谷川 愛美

3月24日、中国訪問の日。私は不安や楽しみなどの感情が入り混じりながら、飛行機に乗りました。中国に着くと空港内はとて広く、不安はなく興奮してきました。そしてバスで移動をしているとヨーロッパ風の街並みが広がっていて、オシャレで素敵だと思いました。夕食後には夜景を見に行き、周りの建物は光で文字を出していたり、光鮮やかに輝いてる船など、とても幻想的で美しかったです。

3月25日、午前中は田子坊を見学した後、高速鉄道で南昌に行き、ホストファミリーと会いました。ホストシスターの劉晨鈺さんが翻訳アプリを使ったりして沢山話しかけてくれました。でも私は翻訳アプリを使えないときは、「yes」「no」「謝謝」ぐらいしか話せなくて、それでも笑顔で話してくれてとても安心し、嬉しかったです。



ホストシスターの劉晨鈺さんと再会

3月26日、朝食はたくさんのフルーツが出て、中国の人たちがどうして肌があんなに綺麗なのか納得できました。この日の南昌市人民政府主催の歓迎昼食会は、とても緊張しました。昼からは外国語学校日本語科の生徒との交流がありました。南昌の中学生が「龍の舞」を披露してくれました。その後、私たちは、南昌の中学生とお正月遊びをしました。

そして、ホストファミリーが迎えに来てくれて帰ったら、劉晨鈺さんの友人がたくさん遊びに来ていて、話したり写真を撮ったりしました。

3月27日、この日は第一中学校の生徒との交流がありました。交流会では私たちは「盆栽たいそう」や「〇×クイズ」をしました。交流会の後は書道の授業を受けました。中国の墨は日本の墨と違って書きにくかったけれど楽しかったです。お昼は各家のホームステイ先の子と一緒に食堂で食べました。食堂はとて広くたくさんの料理が出ました。その後は、八大山人梅湖風景区の見学やホテルで夕食を食べた後、ホストファミリーが迎えに来てくれました。「最後の日だから」と言って夜の南昌の街を歩きました。普通のスーパーのような所や洋菓子店、雑貨店に連れて行ってもらいました。

3月28日、ホテルでホストファミリーと別れた後、南昌昌北空港から国内線で上海虹橋国際空港に行き、豫園商城やお茶の専門店に行きました。お茶店では、お茶の試飲をさせてくれました。とても飲みやすいお茶が多く、とても楽しかったです。豫園商城でお土産を買った後は夕食を食べて、空港と直結しているホテルに泊まりました。

3月29日、中国訪問を終えました。今回の事で、言語の壁はとて厚いけれど、笑顔でいれば相手と仲は深まり、仲間との協力の大切さに気付かされました。これからの人生にこの経験を生かしていきたいです。今回お世話になった皆さん、ありがとうございました。



ホストファミリーと



中国で最後の夕食

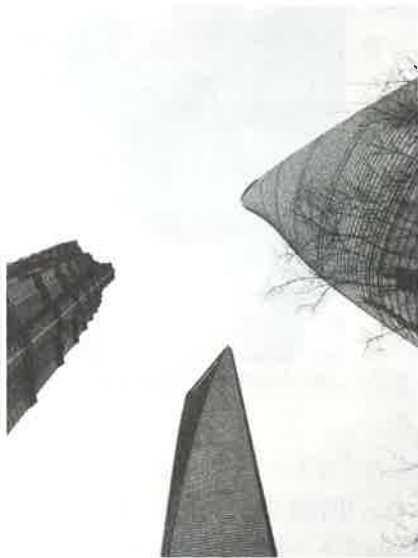


謝謝！中国！！

高松市立屋島中学校 2年 藤本 ひなた

私は日本を旅立つ前、不安というより楽しみの方が大きかったです。中国ってどんな国なんだろう、どんな旅になるのかな、そんなことばかり考えながら飛行機に乗りました。そして中国に着くととても驚きました。建物が高い！人が多い！初日と2日目はほとんど「すごい…」という感想しか言えないほど圧倒されました。だけど日本との違いを見つけるのが楽しかったです。

そして一番楽しみにしていたホームステイ。ホームステイ2日目には、家でホストシスターの劉楽さんとクラスメイトと遊びました。たくさん話しました。中国では山崎賢人と片寄涼太が人気だそうです。楽しすぎて時間が経つのがあっという間でした。



上海の高層ビル



ホストシスターの劉楽さん（左）とその友達（中）

翌日の第一中学校訪問はとても面白かったです。第一中学校の生徒は、元気で明るくて、話しかけてくれたり、飴をこっそりくれたりした子がいて、ずっと笑いっぱなしでした。昼食ではとても辛い麺をみんなで食べました。すごく辛くて涙が出そうでした。だけど団員の堀内くんは全然辛くなさそうに食べていたので少し悔しかったです。ここで団員みんなとの絆がより深まってよかったです。

ホームステイ最後の夜は、ショッピングモールで田中さんと堀内君と合流して買い物を楽しみました。私はホストマザーに勧められたイヤリングを買いました。私の一生の宝物です。みんなで買い物をしている途中、日本に行ったことがある人に話しかけられました。日本に行った時の思い出を楽しそうに話してくれたので嬉しかったです。家に帰って記念撮影をして名残惜しいホームステイを終えました。

私はこの6日間でたくさんの経験をさせてもらいました。これも引率の方々、ガイドさん、団員たち、ホストファミリー、第一中学校や外国語学校のみんなのおかげです。

謝謝！



ホストファミリーと



国を越えた家族の愛…南昌の家族へ

香川大学教育学部附属高松中学校 2年 堀内 瞭

僕は、第25回高松市中学生訪中親善訪問団として南昌市・上海市に行かせていただきました。どんな出会いがあるのか、とても楽しみな気持ちで高松空港を飛びたちましたが、上海浦東国際空港に着き、言葉が通じない現実を前に不安な気持ちになりました。

2日目は、ホストファミリーとの対面でした。会話は大丈夫なのか、ファミリーと仲良くなれるだろうかと対面までの時間たくさんのことを考え緊張していましたが、初めての対面時に笑顔で迎えてくれ一瞬にして不安が楽しみへと変わりました。

ホームステイ先は、両親と同一年の男の子の3人家族でした。3日間のホームステイ中には、南昌の夜景や、日本の家族へのお土産を買いに連れて行ってくれました。南昌の街は、夜になると各所でライトアップが行われ、昼間とは違う街の様子が印象的でした。

滞在期間中、驚いたこともたくさんありました。南昌の中学生は、登校が早いということです。僕が起床して朝食を摂るころには学校に行っていました。また、食事の時の箸が長いということです。ホストファミリーへのお土産として、日本からお箸を持って行きましたが、ホストマザーに渡した時、「日本の箸は、とても短いですね。」と驚いていました。



巨大な置物のライトアップの前で

初めてお会いし、短期間の滞在にもかかわらずホストファミリーは僕に本当の家族のように接してくれました。会話は、英語と翻訳機を使って行いましたが、もっと英語を使えたら、ホストファミリー



ホストファミリーと

とたくさんのお話ができたのではないかと反省の部分もあります。しかし、このホームステイを通し感じたことは、コミュニケーションは言葉だけではないということです。もちろん、言葉で思いを伝えることができれば一番ですが、ジェスチャーや表情などの非言語的なコミュニケーションを使うことで、うれしさや感謝の気持ちは伝えることができます。このような素晴らしい出会いができ、一生の思い出を作ることができたホストファミリーには、心から感謝しています。出

会った人とのつながりを大切にしていきます。

この派遣での使命である、高松の良さを伝えることや、親善訪問団としての交流は団員一丸となって達成できたのではないかと考えています。この貴重な経験を生かし、高松市における国際交流に積極的に貢献していきたいです。今回の派遣に引率していただいた宮脇団長さん、笠井さん、団員のみんな、そして関わってくれた方、出会った方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

